



夏休み 「なりたい自分」を目指し、一步踏み出そう！！

(終業式での話より)

今日で、一学期が終わりました。この3か月半を振り返ってどうでしたか。思い通りの学校生活が送れましたか。わたしの目から見ると、光陽中学校の生徒はいろいろなことを頑張った生徒が多かったと思います。行事をとっても、1年生の宿泊校外学習、3年生の沖縄修学旅行、体育祭、2年生の職場体験学習・・・どれも、みなさんはよくやったなあと心からうれしく思っています。

授業にしても、しっかり前向きに取り組んでいた人がとても多かったと思います。6月には、府教育庁の方が、そして、先日は、地域の保護司会や更生保護女性会の方が、みなさんの授業の様子を見に来てくださったのですが、「落ち着いてしっかりやれているなあ」とおほめのことばをいただきました。校内もとてもきれいで、掃除がゆきとどいているし、掲示物も工夫されていると言ってくさっていました。とてもうれしいことです。

この1学期の良い流れをぜひ、2学期につなげていってほしいと思います。

夏休みを前に、最近、亡くなられました心に残るお二人のことをお話したいと思います。

まず、小林麻央さん。みなさんも知っているよう、元アナウンサーで、歌舞伎役者の市川海老蔵さんの奥さんで、4歳と5歳の子どものおかあさんでもありました。6月22日に34歳という若さで乳がんのため、亡くなられたのですが、去年の9月から始めた「kokoro」というブログは、多くの人々に強い影響を与えました。わたしも、たびたび麻央さんの書いていることばを目にしましたが、そのなかでも、ブログを開設した去年の9月1日のブログのタイトル「なりたい自分になる」ということばがもっとも印象に残っています。末期のガンと宣告され、自分があとどれだけ生きられるのか、とても不安であっただろう気持ちと全く対極にあるような力強いことば。おそらく、いつかそんな遠くない将来、子どもたちとの別れが来るだろうけど、自分自身が病気としっかり向き合い、「強いお母さん」であったと子どもたちの心に刻み、将来、子どもたちがどんな困難にぶつかっても決して逃げないでほしいという思いがあったのではないかと思います。たとえ、どんなにつらい状況になっても、自分の気持ち次第で、人間は、こんなに前を向いて生きていけることを教えてもらいました。

もう一人は、おととい亡くなられた日野原重明さん。聖路加国際病院の名誉院長として105歳で亡くなられるまで、現役のお医者さんとして活躍されました。この方の本を読ませてもらったり、インタビューを聞かせてもらったりすると、いつも前向きな気持ちになれ、「もっと自分も頑張れる」と励まされました。全国の小中学校で「いのちの授業」もされていました。そのなかで話された次のようなことばが心に残っています。

「命はなぜ見えないか。それは命とは君たちが持っている時間だからなんだよ。死んでしまったら自分で使える時間もなくなってしまう。どうか一度しかない自分の時間、命をどのように使うか しっかり考えながら 生きていてほしい。さらに言えば、その命を 今度は 自分以外の何かのために使うことを学んでほしい」と。

だれもが「なりたい自分」になれる可能性を秘めています。「どんな自分になりたいのか」「そのためには、まず何をすればいいのか」よく考え、そして、最初の一步を踏み出しましょう。自分たちひとりひとりに与えられた時間である「いのち」を最大限輝かせ、自分のためにそして自分以外のだれかのために精一杯使うことができれば、こんな素晴らしいことはありません。夏休みは、そういったことを一度立ち止まって考え、新たな一步を歩みだすのにとっても良い機会です。勉強、部活動、習い事、家での生活、何でもいい、新しい目標をもって、進んでいきましょう。目標に向かって努力している人は、とても魅力的だし、自分でもそんな自分のことがきっと大好きになれると思います。

《保護者のみなさま》

一学期、さまざまな方面で本校の教育活動にご協力いただき、ありがとうございます。明日から、長い夏休みが始まります。クラブにはいない生徒や引退した三年生とは、しばらく顔を合わせることができず、寂しい気持ちもしますが、前向きに目標をもってチャレンジし、ひと回り大きくなって、2学期会えるのを楽しみにしています。ますます暑さも厳しくなるとは思います。保護者のみなさまもどうぞご自愛ください。

